

走攻守 基本が大事

光星高野球部が児童200人指導



光星高野球部員から守備の指導を受ける子どもたち

八戸

八戸学院光星高の硬式野球部を指導者に招いた少年野球教室が26日、八戸市屋内トレーニングセンターで開かれ、市内などから集まった小学3〜6年生約200人が走攻守の基本動作を学んだ。

(齋藤桂)

「小中学生のための硬式野球教室(角金静夫代表)が主催。10回目の今回は参加者数が予定を上回ったため、安全を考慮して軟式球だけで実施した。

子どもたちは入念にウォーミングアップした後、守備位置ごとに分かれ、投げ方や捕球の仕方などの指導を受けた。打撃練習も実施した。全体練習後には、光星の部員30人が硬式球で守備練習を披露し、機敏な動きに拍手が湧き起こった。

質問コーナーで、子どもたちから「バットの芯で球を捉えるコツは」「速い球を投げるにはどうしたらいい」などの質問があり、光星の仲井宗基監督や選手が「目線がぶれないようにスイングする」「たくさん遠投すること」と応えていた。

市立明治小6年の上野裕章君(11)は、「ゴロはなるべく低い位置で捕れば捕りやすいと聞いて勉強になった」と話していた。

同教室は小学1年〜中学3年を対象に毎週日曜日の午前9時から約2時間、屋内トレーニングセンターで野球教室を開いている。申し込み、問い合わせは妻神博明さん(電話090(9)6336)3240へ。